

## 第 36 回 START プログラム (アメリカ)

2016 年 9 月 10 日から 9 月 25 日までの 2 週間、第 36 回 START プログラムに学部 1 年生 30 名が参加し、引率の田北冬子特任講師 (外国語教育研究センター) ら 3 名の引率教職員と共に、アメリカのバージニア州にあるジェームスマディソン大学 (JMU) に留学しました。JMU は、首都ワシントン DC から車で約 2 時間の距離にあり、広島大学も加盟している INU (国際大学ネットワーク) の加盟校のひとつです。

START プログラムに参加した学生たちは、2 週間の滞在期間中、居住アドバイザー (RA) としてキャンパスの学生寮に住む学生たちの部屋で共同生活を体験しました。平日は現地教員によるアメリカの社会と文化についての講義を受けたり、ホスト RA と一緒に通常授業に参加したりしました。また、滞在期間中に米同時多発テロ 15 年追悼式典、大統領選挙運動、JMU の International Week などの行事が行われていたため、授業内外で話題に取り上げられたり、様々なイベントに参加したりと、アメリカ社会の動きを肌で感じることができ、非常に良い経験となりました。空き時間にはキャンパスのスポーツジムに通い、現地学生と共に汗を流す学生もいました。

大学以外にも、消防署の訪問、マウントバーノン (アメリカ合衆国初代大統領ジョージ・ワシントンのプランテーションがあった場所) やシェナンドア洞窟見学、サッカー観戦、地域の子どもたちとの交流 など多岐にわたる活動を行い、授業外の生きた英語に触れることができました。

最終日には、2 週間で感じたこと、学んだことを活かし、グループごとに英語でプレゼンテーションを行いました。

START プログラムに参加した学生は、初めて海外での学生生活を体験し、日本とアメリカの文化の違いや、学生の学問に対する姿勢や課外活動への取り組み方の違いなどに気づきました。帰国後のフォローアップセッションでは、今後、START プログラムの経験を原点に、語学学習や留学、学内での国際交流活動などに新たな決意を持って挑戦していきたいという熱い思いを共有しました。



到着日、ホスト RA がバスまで迎えに来てくれました



現地の学生とカフェテリアで食事



現地の学生と授業で交流



日本の文化について紹介



グループごとに英語で発表を行いました



研修最終日にはワシントン DC を観光